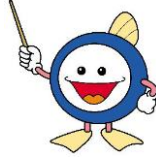


そもそも、下水道ってなに？



トイレやお風呂の水はどこへいく？

晴人くん「トイレやお風呂で使った水は、どこへ行って、どうなるの？」

職員さん「調布市内の家から出た水は、地下にある下水道という長い

管を通して、東京湾のすぐ横にある森ヶ崎水再生センターという処理場

まで運ばれるんだ。そこで、きれいな水にして海に流しているんだよ」

葵ちゃん「東京湾の近くまで運ばれていくんだ！ 多摩川に流しているのかと思っていた」



えっ、虫が食べる!? 水をキレイにする仕組み

職員さん「ところで、処理場まで運ばれた汚れた水を、どうやってキレイにしているかわかるかな」

葵ちゃん「家にある浄水器を大きくしたようなものがあるんじゃない？」

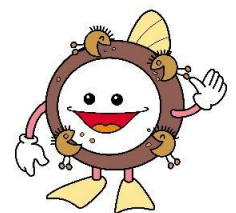
職員さん「浄水器と役割は同じだけど、キレイにする仕組みがちがうんだ。家の浄水器はフィルターといって、一言でいうと、ものすごい目の細かいザルでゴミやにおいをとっているんだ」

葵ちゃん「処理場は違うの？」

職員さん「処理場でフィルターを使って水をきれいにしようとすると、うん

ちや食べ残しなどのドロドロした汚れですぐに網目が詰まって、水が通

らなくなっちゃうんだ。そこで大活躍するのが『微生物』という目では見



えない小さな生き物たちだ」

葵ちゃん「えっ！ 生き物に汚れを食べてもらっているの!？」

職員さん「そうなんだ。微生物にとっては、お水の中のドロドロした汚れが、大好物の「ごちそう」なんだ。処理場では、微生物がたくさんいるプールの中で、時間をかけて汚れを食べてもらっているんだ。そうすることで、まちから出る、たくさんの水を一度にキレイにすることができんだよ」

葵ちゃん「たくさんの水をキレイにするには、その微生物に汚れを食べてもらうのがいいんですね」



むかしの多摩川は汚れていた？ 調布の下水道の歴史^{れきし}

晴人くん「ところで調布市の下水道はいつごろできたの？」

職員さん「下水道がすべての家につながったのは、今から約^{やく}40年前のことなんだ。それまでは、トイレの水はバキュームカーという^{せんよう}専用の車で^{かいしゅう}回収されていたけれど、それ以外の風呂や台所などの水は、そのまま



多摩川に流されていたんだ。だから、昔は多摩川もだいぶ^{よご}汚れていたんだよ。下水道ができたおかげで多摩川もとてもきれいになったんだ」



葵ちゃん「シャンプーした水とか、皿洗いした水とかがそのまま川に流れていたんだ。それなら、川は汚れて^{とうぜん}当然だよな」



うんちが^{たからもの}宝物だった!? むかしの日本のエコな知恵

職員さん「ちなみに日本では、ずっと昔は、おしっこやうんちを^{やさい}野菜を育てるための『^{ひりょう}肥料』として使っていたんだ。ちなみに、おしっこやうんちは、5つのランクがつけられて売り買いされていたらしいよ」



晴人くん「うんちを売ってたの! そもそも、ランクの高いうんちってどういうの?」

職員さん「気になるよね。どんなうんちだと思う?」

晴人くん「んー。わからないな。野菜もよく食べようねってよく言われるから、野菜をよく食べている人のうんちかな」

職員さん「おいしい! 考え方はあってるよ。結局食べたものがうんちになるんだよね。だから、ごちそうを食べているお殿さま^{との}のうんちは栄養満点だから最高ランクだったらしいよ。逆に、悪いことをして牢屋に入った人のうんちは安かったみたい」

晴人くん「そうなんだ。食べるものでうんちのランクが決まってくるんだね。ぼくのうんちは、どのぐらいのランクなんだろうか。。」

葵ちゃん「も、もう、うんちの話は終わりにしない。。?」

職員さん「ごめんごめん(笑)、とりあえず、昔の人はうんちすら^{むだ}無駄にしないで、おいしい野菜をつくるために、大切にリサイクルしていたってことを覚えといてね」

葵ちゃん「そう考えるとすごいですね」

職員さん「お殿さまがいたころまでいかにしても、晴人くんのおじいちゃんやおばあちゃんなら、まだ下水道がなかったころの様子を知っているかもしれないね。下水道は地下に

あるから、ふだんは目に見えないけれど、生活には欠かせない役割をしてくれているんだ。

夏休み^{りょう}を利用して、くわしく調べてみてね」

晴人くん「(ぼくのうんちを買ってくれる人がいたら、おこづかい増えそうだな。。)」

おしまい

